新宿区多文化共生まちづくり会議
審議結果報告書

令和 8 年（2026 年）8 月 21 日

新宿区多文化共生まちづくり会議

はじめに

平成 24 年（2012 年）9 月に区長の附属機関として新宿区多文化共生まちづくり会議が発足し、これまでに「外国にルーツを持つ子どもの教育環境の向上」、「災害時における外国人支援」、「日本人と外国人が共につくる地域社会」等のテーマについて審議を行ってきました。

前期の第６期会議では、「地域における多文化共生意識の醸成について」をテーマに議論を進めたところ、「交流」に関する意見が多くありました。また、令和５年度に区が実施した多文化共生実態調査では、外国人と日本人ともに「交流」に関する回答率が高いという結果になっていました。

このため、今期の第７期会議では、「多文化共生の推進に向けた交流について」を審議テーマに議論を進めていきました。

会議では、資料をもとに新宿区の状況や取組について情報共有を行うとともに、地域の交流事例を参考にしながら、交流のための効果的な情報発信や参加促進などの意見を交わしました。さらには、地域の実情把握を目的に、まち歩きを行うとともに、町会・自治会の会長を招いてお話を伺うことも行いました。

現在、日本は本格的な少子高齢化・人口減少時代を迎えており、国は、日本経済の維持とさらなる発展のためには、外国人の人材確保が必要としています。今後、日本全国において外国人が増えていくことが想定される中、外国人が地域コミュニティに参加する一歩を踏み出すことや、日本人が外国人を受け入れる意識を持つことが大切です。

気軽に参加できる地域のお祭りやイベントは、日本人も外国人も楽しむことができます。また、交流の機会はイベントだけではなく、清掃活動や防災訓練、ボランティア活動など様々です。

日本人と外国人が交流することで、互いを理解し尊重しあうことができます。そして、日本人と外国人が地域の担い手として共に協力して様々な地域活動に取り組むことにより、地域コミュニティの活性化を図ることができます。

新宿区における多文化共生のまちづくりのさらなる推進を願い、ここに、第７期多文化共生まちづくり会議の審議結果を報告します。

第７期　新宿区多文化共生まちづくり会議

目次

第１章　多文化共生のまちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
１　新宿区の外国人住民・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（１）外国人住民の人口の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（２）国籍別の人口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
２　新宿区の多文化共生施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（１）日本語学習への支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（２）外国人相談窓口の運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（３）外国人への情報提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（４）地域国際交流事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（５）しんじゅく多文化共生プラザ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

第２章　審議テーマについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
１　第７期テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
２　理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第３章　審議経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
１　審議の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
２　会議の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第１回会議　委員委嘱、審議テーマの設定・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第２回会議　情報の共有（新宿区の状況、取組）・・・・・・・・・・・・10
第３回会議　交流事例の紹介（地域の祭、イベント等）・・・・・・・・12
第４回会議　事業検証・振り返り（交流を促進するための情報提供等）・15
第５回会議　友好都市交流事業の紹介（異文化交流の取組）・・・・・18
第６回会議　地域の実情の把握（まち歩き等）・・・・・・・・・・・・20
第７回会議　実態調査の考察（データ分析等）・・・・・・・・・・・・22
第８回会議　交流のあり方の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第９・10回会議　報告書の審議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

第４章　提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
１　文化体験から交流へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
２　様々な交流の機会への参加促進・・・・・・・・・・・・・・・・・27
３　日本人と外国人との協働による交流の促進（ボランティア活動を含む）・28
４　多様な世代（親子、高齢者　若者）の参加促進・・・・・・・・・30
５　交流を促進するための効果的な情報発信・・・・・・・・・・・・・31

６　多文化共生のモデルケースとして発信・・・・・・・・・・・・・・・32
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

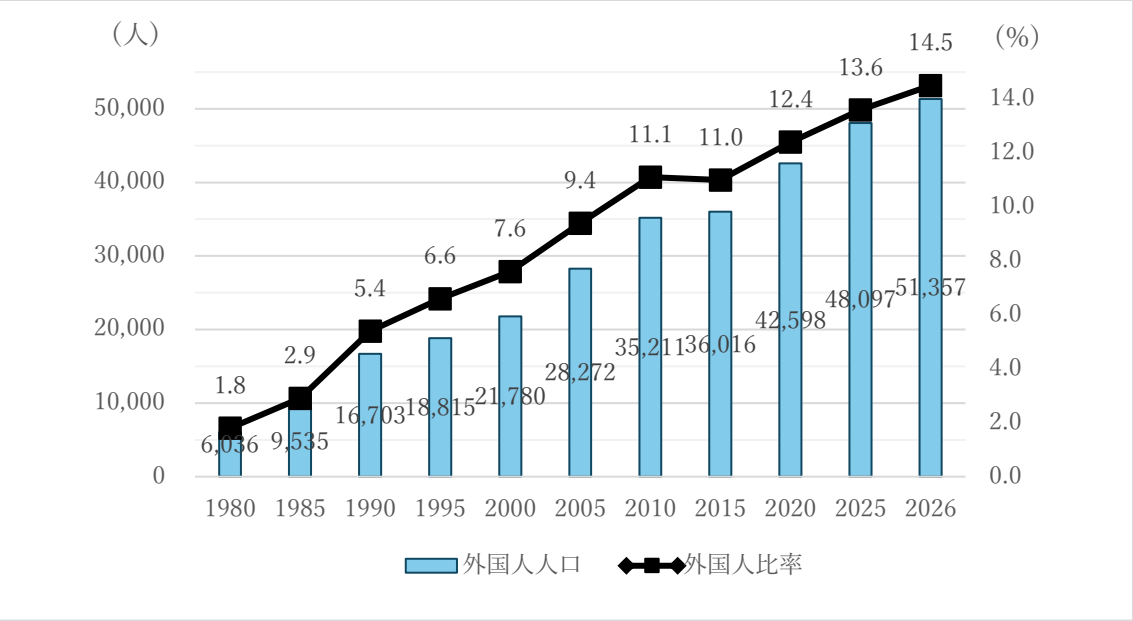
資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第７期 新宿区多文化共生まちづくり会議委員一覧 ・・・・・・・・・・33

第１章　多文化共生のまちづくり

１　新宿区の外国人住民

（１）外国人住民の人口の推移

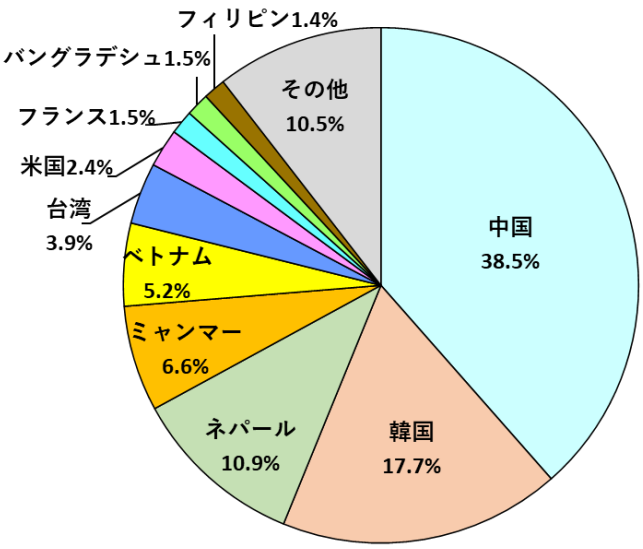
1980 年代後半から増加していき、1980 年の 6,036 人から、2026 年には 51,357 人となっている。また、外国人が占める割合も増加傾向にあり、2026 年には 14.5%となっている。（各年１月１日）



（２）国籍別の人口

2026 年１月１日現在の外国人住民の国籍・地域は１３１にもなり、上位１０か国は次のとおりとなっている。

	国名	人数	%
1	中国	19,778	38.5%
2	韓国	9,071	17.7%
3	ネパール	5,592	10.9%
4	ミャンマー	3,411	6.6%
5	ベトナム	2,665	5.2%
6	台湾	1,982	3.9%
7	米国	1,233	2.4%
8	フランス	769	1.5%
9	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	749	1.5%
10	フィリピン	715	1.4%
	その他	5,392	10.5%
		51,357	



２　新宿区の多文化共生施策

主な取組は次のとおり。

（１）日本語学習への支援

新宿区で生活している外国人が、日本語を用いてコミュニケーションをとりながら地域で安定的な生活を送れるよう、日本語学習の機会の充実を図る。

①　日本語教室の運営（１０所　１５教室）
②　「日本語ひろば」の運営（１所 週４回）
③　子ども日本語教室の運営（１所 週３回）
④　日本語最初級者向け教室の運営（１所　１教室）
⑤　日本語学習コーナーの運営

（２）外国人相談窓口の運営

外国人が安心して地域で生活できるよう、多言語による相談窓口を設置する。

①　本庁舎１階外国人相談窓口（区政情報センター内）
②　しんじゅく多文化共生プラザ外国人相談コーナー

（３）外国人への情報提供

①　外国語広報紙
②　外国語生活情報誌
③　外国人向け生活情報ホームページ
④　新宿生活スタートブック・新宿生活スタートガイド（動画）
⑤　外国語版ＳＮＳ

（４）地域国際交流事業

地域で外国文化等を紹介することにより、国際交流を促進させ、多文化共生意識を普及啓発する。

（５）しんじゅく多文化共生プラザ

日本人と外国人との交流を促進し、文化、歴史等の相互理解を深め、多様な文化を持つ人々が共に生きる地域社会の形成に資するため、しんじゅく多文化共生プラザを設置する。また、地域住民や活動団体によるネットワークを構築する「新宿区多文化共生連絡会」を運営する。

第２章　審議テーマについて

１　第７期テーマ

多文化共生の推進に向けた交流について

２　理由

○　令和５年度に実施した多文化共生実態調査では、外国人住民と日本人住民ともに「交流」に関する回答率が高かった。

・「新宿区が進めるべきこと」という質問では、「交流会やイベント」との回答が外国人住民で１位(46.5%)、日本人住民で２位（37.9%）と高かった。

○　前期の第６期会議では、「地域における多文化共生意識の醸成について」を審議テーマに議論を進めたところ「交流」に関する意見が多かった。

・日本人と外国人が交流して親しくなることで、いろんな問題を話しやすくなる。等

○　前期の第６期会議では、大久保地域のまち歩きと施設見学を行った。

地域センターや図書館といった施設では、日本人と外国人の交流拠点として様々な取組が行われていた。多文化共生の推進のためには「交流」が重要であることを再認識した。

○　委員に第７期テーマのご意見を伺ったところ、次のご意見をいただいた。

【交流に関するご意見】

「「交流のあり方について」を提案します。地域のお祭りやイベントへの外国人の参加を促して地域コミュニティを活性化させ、地域課題を解決していきたいと思っています。」

【振り返り（区の取組の検証と評価）に関するご意見】

「Plan-Do-See の中の See の時期と思う。これまでを振り返り、また、実態調査の結果も踏まえ、現時点での課題の洗い出し、今後取り組んでいくべき事項と優先順位の提案を行ってもいいのかと思います。」

【偏見・差別に関するご意見】

「偏見・差別をテーマにしてもよい。外国人と日本人が思っている偏見・差別にずれがあるかもしれない。」

○　「交流」をキーワードに審議を行うことで、相互理解と地域コミュニティの活性化を図り、多文化共生をさらに推進することができる。

　また、交流会やイベントを知らせるための「情報提供」や、コミュニケーションを図る「日本語学習」など、これまでの取組の振り返りを行うこともできる。

　さらには、「交流」により互いの文化を認め合うことで「偏見・差別」の解消につなげることができる。

　このように、委員のご意見を反映することが可能である。

以上のことから、テーマを、「多文化共生の推進に向けた交流について」とした。

第３章　審議経過

１　審議の進め方

第７期会議では、議論を深めるため、「交流事例の紹介」や「区の取組の検証」、「地域の実情把握（まち歩き）」などを行うこととした。

そのうえで、審議テーマである「多文化共生の推進に向けた交流について」の提言をまとめることとした。

各回の審議内容は下表のとおりである。

開催日程		回数	主な内容
令和６年 (2024 年)	10 月 24 日(木)	第 1 回	委員委嘱、審議テーマ設定
	12 月 11 日(水)	第 2 回	情報の共有 ・新宿区の状況、取組
令和７年 (2025 年)	3 月 25 日(火)	第 3 回	交流事例の紹介 ・地域の祭、イベント等
	6 月 18 日(水)	第 4 回	事業検証・振り返り ・交流を促進するための情報提供等
	8 月 1 日 (金)	第 5 回	友好都市交流事業の紹介 ・異文化交流の取組
	10 月 29 日(水)	第 6 回	地域の実情の把握 ・まち歩き等
令和８年 (2026 年)	1 月 23 日(金)	第 7 回	実態調査の考察 ・データ分析等
	3 月 25 日(水)	第 8 回	交流のあり方の検討
	6 月 17 日(水)	第 9 回	報告書（素案）
	7 月 31 日(金)	第 10 回	報告書（案）
	8 月 21 日(金)	第 11 回	報告書提出

２　会議の概要

第１回会議　委員委嘱、審議テーマの設定

第１回会議では、区長から第７期委員への委員委嘱を行い、その後、委員の互選により会長と副会長を選任した。

そして、審議テーマを「多文化共生の推進に向けた交流について」として審議を進めることとした。

さらに、各回の審議内容として「交流事例の紹介」「地域の実情の把握」「多文化共生実態調査の考察」「交流のあり方の検討」などについて話し合うことを確認した。

また、各委員からの自己紹介の時間を設け、多文化共生に関する思いや、自分の国のルーツ、地域での活動などについて伺った。



▲委嘱状交付の様子



▲会議の様子

第２回会議　情報の共有（新宿区の状況、取組）

第２回会議では、新宿区の外国人住民の状況や、地域特性について事務局から説明を受け、各委員が新宿区の状況について認識を深めた。また、新宿区の取組についても説明を受けた。

会議では「外国人にとって住みやすい地域というのは、日本人にとっても住みやすい地域でなくてはならない。」などの意見があった。

【会議資料の概要】

◆新宿区の人口

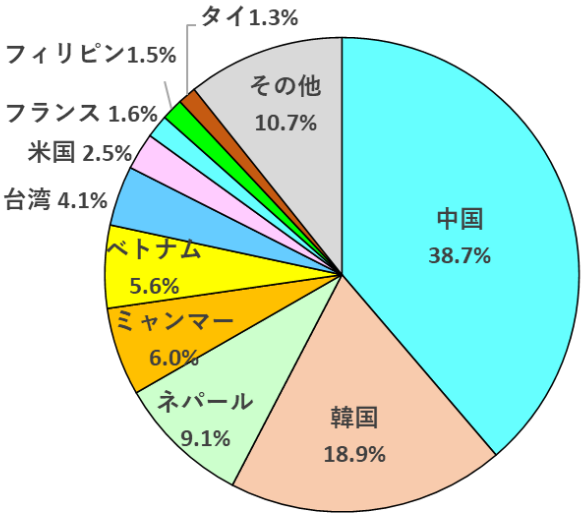
2024（令和６年）12 月１日　　（人）

		男	女	合計
住民基本台帳人口		177, 700	175, 629	353, 329
内訳	日本人	152, 379	152, 665	305, 044
	外国人	25, 321	22, 964	48, 285

◆外国人住民の国籍別人口（上位 10）

2024（令和６年）12 月１日

	国名	人数	%
1	中国	18, 706	38. 7%
2	韓国	9, 126	18. 9%
3	ネパール	4, 380	9. 1%
4	ミャンマー	2, 904	6. 0%
5	ベトナム	2, 725	5. 6%
6	台湾	1, 974	4. 1%
7	米国	1, 217	2. 5%
8	フランス	759	1. 6%
9	フィリピン	714	1. 5%
10	タイ	607	1. 3%
	その他	5, 173	10. 7%
		48, 285	



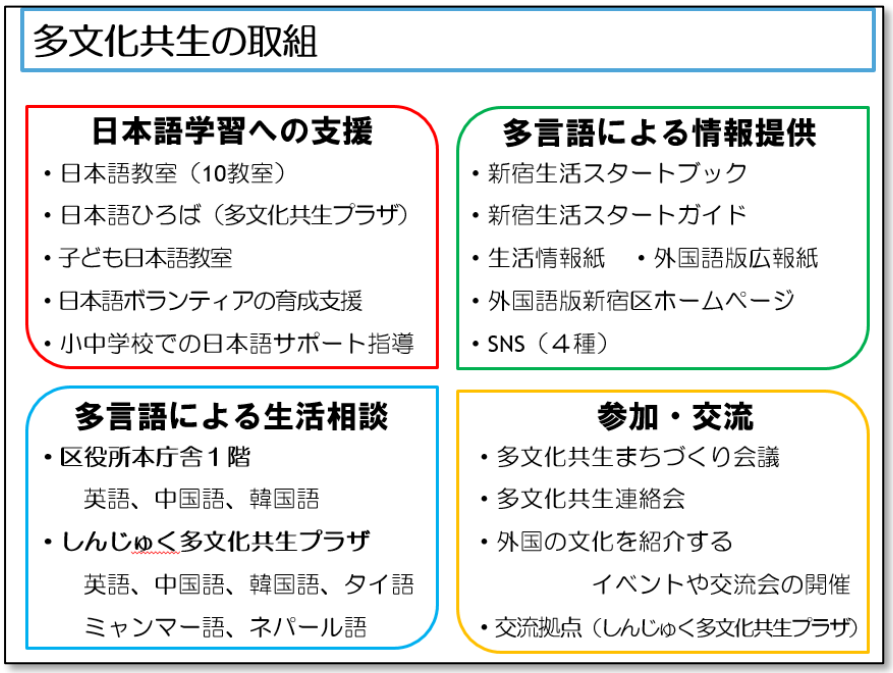
◆新宿区の地域特性

新宿区は、昔から宿場町であり、多くの人が行き交うまちとして発展してきました。新宿区は多様性に富んだまちです。

・歌舞伎町など活気ある繁華街
・西新宿の高層ビル街
・閑静な住宅街
・潤いある河川　　・緑豊かな公園
・神楽坂など風情ある街並み
・文化歴史が継承されている地域

◆区の取組

（会議資料の抜粋）



【会議での主な意見】

・外国人にとって住みやすい地域というのは、日本人にとっても住みやすい地域でなくてはならない。
・留学生はボランティア活動に興味を持っていて、参加した学生たちは地域住民や主催者との交流ができて目が輝いているのを感じる。
・新宿区が幅広く多くのことに取り組んでいることを知れて、とてもよかった。
・自分の経験では、公園での餅つきや、神社での神楽の奉納には、外国人の方も見に来ていた。
・外国の文化だけでなく、日本の文化を紹介するイベントや交流会も情報発信していくとよい。
・外国人の方がボランティア活動に関わっているとの話があった。ボランティアのネットワークがつくれたら、すごく良いことになると思った。
・異文化のコミュニケーションは楽しいという視点で活動ができて面白いと思う。
・ボランティアの方々とのつながりは、まさに日本人と外国人との交流である。

第３回会議　交流事例の紹介（地域の祭、イベント等）

第３回会議では、日本人と外国人が地域で交流している具体的な事例について情報共有した。会議では「外国人もイベントの運営に参加するとよい」「交流はイベントだけでなく様々な機会がある」などの意見があった。

【資料の概要】

●盆踊り

▼留学生が盆踊りに参加



▼出身国の紹介ブースを出展



●料理体験

▼フランスのクレープ作り
（日本語学校と地域の町会が参加）



●日本文化の体験

▼国際交流「ひなまつり」【新宿未来創造財団】



●スポーツ

▼箱根山駅伝大会には外国人も参加



●地域センターまつり（区内 10 か所で開催）

▼大久保地域センター　五月まつり



●各種イベント

・大新宿区まつり「ふれあいフェスタ」
（毎年、秋に開催される区主催のイベント）
・節分祭・豆まき
・図書館でのイベント（外国語での読み聞かせ）
・日本語スピーチコンテスト　　など



●清掃活動

▼留学生などの外国人が清掃活動に参加。







●防災訓練

日本人と外国人が防災訓練に参加することで、災害時に共に助け合う意識が高まります。



●安全・安心の活動

日本人と外国人が一緒に防犯・防火に取り組むことで、安全・安心なまちづくりが推進されます。



【会議での主な意見】

・私の日本語学校では、清掃活動、箱根山駅伝、スピーチコンテストしゃべれおん、地域の盆踊り大会などに参加している。留学生が地域の方と交流できる機会があれば、積極的に参加したい。
・地域センターのイベントだけを見ても外国人がいっぱい参加している。これは新宿区の特徴であると思う。
・イベントの後に良かった点、改善すべき点をフィードバックするとよいと思う。
・海外では、定住者に対して地域イベントのボランティア参加というプログラムがある。

・早い段階でコミュニティに参加して交流すれば、本当の意味で地域住民になると考えている。
・ミャンマーのフェスティバルに行った時に、ミャンマーの文化を感じてワクワクした。
・日本人が外国の文化に触れる機会がもっとあるとよいと思う。
・大久保まつりのパレードに参加している。参加したベトナム人からは、次回も参加したいとの積極的な問い合わせがある。
・大久保まつりに娘も参加していて、Kポップを踊っている。まさに多文化交流といった感じである。
・外国人も日本人も参加できる交流スペースを運営している。
・親子で楽しめるカフェを開催している。
・大久保図書館で、外国人の方に外国語で読み聞かせを行う試みをしている。
・すばらしいイベントがあることを、ほとんどの外国人は知らないと思う。
・外国人の参加者を増やすために、ＳＮＳなどを使うとよいと思う。
・日本人と外国人が、様々な活動やイベントを一緒にやると仲よくなる。文化や言葉の壁も減ってくると思う。
・大久保まつりに参加している。運営事務局の方を見ていると、ボランティアでここまでやるんだと感心する。拍手を送りたいぐらい皆さん頑張っている。
・新宿未来創造財団の「ひなまつり」に参加したことがある。着物の着付けや、生け花などの日本の文化体験ができるすばらしいイベントであった。参加したい人に情報が届くとよいと思う。
・日本語ボランティア教室をやっており、清掃活動や地域イベントに参加している。
・交流の目的を明確にすることが大事。
・外国人はイベント情報になかなかたどり着けない。
・情報を広めるためには、日本語学校や専門学校、町会・自治会、商店会などのネットワークが大事と思う。
・情報発信は重要だが、ＳＮＳは年代によって使うものが異なる。
・外国人が主催者側として参加したら、多分コミュニティへの愛着が非常に大きくなると思う。
・参加したいレベル別の情報発信の仕方をすると非常に効果的と思う。
・外国人がイベントに参加するときに、運営側のボランティアとして参加すると地域に溶け込めると思う。
・交流はイベントだけでなく、様々な機会があると思う。

第４回会議　事業検証・振り返り（交流を促進するための情報提供等）

第４回会議では、区の多文化共生に関する事業の内容と実績をもとに検証と振り返りを行った。会議では「情報は発信するだけでなく、どのように人へつなげていくかが大事」などの意見があった。

【資料の概要】

１　交流を促進するための「情報提供」に取り組んでいます

（１）外国語版ＳＮＳ

行政情報、生活情報、災害時の情報を提供しています。お祭りやイベントの情報も提供しています。１か月に１０～１５件程度配信　Facebook、X、LINE、Instagram

【お祭りやイベントに関する情報】
- 早稲田さくらまつりが開催されます！
- 新宿年末クリーン大作戦
- 大新宿区まつりふれあいフェスタ
- 新宿中央公園夏まつり納涼盆踊り大会
- 行こう！触れよう！防災フェス in 歌舞伎町
- 大久保五月まつり　など

（２）外国語広報紙　（新宿ニュース）

地域のイベント、まち歩きスポット、図書館やスポーツ施設など、交流を促進させる情報を掲載しています。　　発行：年３回発行



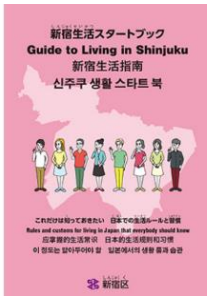
【過去に掲載した交流促進に関する記事】
- 地域のイベントに参加してみませんか？
- 町会・自治会で地域のつながりを深めよう
- 図書館に行こう！
- 区内のスポーツ施設
- 日本の年中行事
- など

（３）外国語生活情報誌、（４）外国人向け生活情報ホームページ

（５）新宿生活スタートブック（冊子）・新宿生活スタートガイド（動画）

生活に必要な情報を掲載しています。その中で「近所付き合い」「町会・自治会」など、地域参加を促進させる情報を掲載しています。図書館やスポーツ施設、博物館、地域センターなど交流の拠点となる施設も掲載しています。生活ルールやマナーを周知することで、互いに気持ちよく生活することができます。

▼新宿生活スタートブック（冊子）





▼新宿生活スタートガイド（動画）



2　コミュニケーションを図るため「日本語学習支援」に取り組んでいます

（１）新宿区日本語教室　10所（15教室）で、初級日本語教室を運営

（２）日本語ひろば　　レベル別の日本語指導を週４回実施

（３）子ども日本語教室（こどもクラブ新宿）日本語と教科学習の支援を実施　小4～中3対象

（４）日本語最初級者向け教室の運営　　最初級者が、集中して学習する日本語教室を実施

3　相互理解を促進するため「交流事業」に取り組んでいます

地域で外国文化を紹介することにより、お互いを理解し、多文化共生意識を醸成しています。

・ミャンマー文化教室　　・韓国舞踊、伝統衣装着付け体験　・タイの料理講座・文化交流

・ネパール・ベトナムの民族衣装の体験　・ベトナム書道体験

・インドネシア・バリの「バリ猫」のペイント　・アラビア文字書道体験

・ネパール・ペルーの民族舞踊　　・フランスの文化交流及び料理体験



4　相互理解を促進するため「プラザの運営」に取り組んでいます

日本人と外国人との交流を促進し、文化、歴史等の相互理解を深め、多様な文化を持つ人々が共に生きる地域社会の形成に資するため、しんじゅく多文化共生プラザを運営しています。多文化共生に取り組む人々を支援し、ネットワーク化を進めるため、地域住民や活動団体の情報交換や活動を PR できる場として「新宿区多文化共生連絡会」を運営しています。

【会議での主な意見】

・大久保地域センターでは、毎年、大久保五月まつりを開催している。韓服の試着や、ネパールの踊りなど、外国の文化を取り入れている。

・大久保五月まつりは、地域の人たちがたくさん集まってくる。日本の子どもたちも外国の文化に自然に触れることができて、これはすごくいいものだと思っている。

・新大久保インターフェスでは、日本の子どもたちが意外と集まってこなかった。小学校に案内に行ったが、町会が主催なら安心して行けるという話があった。

・チラシだけ配っても参加してもらえない。大きな課題である。

・日本の子どもたちが外国の子どもたちと仲よくなって、友達になって、お互いに理解し合う絆をつくっていくようなことをやりたい。

・子どもは、親や友達がイベントに行くと、一緒に行くと思う。

・イベントに参加したくても、1、2 か月先までスケジュールを組んでいて参加できない人が多い印象がある。

・大久保五月まつりで、韓服の試着を開催した。ただ着るだけではなく、韓国の礼儀や挨拶などを行った。

・韓国の文化を知ってもらいたい。日韓で仲良くなるとよいと思う。

・ネパール人は年に何回かフェスティバルをやっている。新大久保インターフェスでは、短い期間で頑張って準備した。
・学生に一番使うＳＮＳを聞いたところ、インスタグラムが圧倒的に多かった。
・最近のミャンマー人は、ＳＮＳでテレグラムを使っている。
・高齢者はインターネットが使えなかったり、スマートフォンを持っていても電話しかできなかったりする人がいる。
・新宿区は留学生が多い。ＳＮＳでの情報発信だけでなく、日本語学校から学生たちに情報を流すとよい。
・日本語学校や専門学校などのメーリングリストを作って、区からの情報を発信するとよい。
・イベントは、関心の無い人にも振り向いてもらう必要がある。
・大きなイベントだけではなく、小さなイベントをいくつも継続的にやってもいいと思う。
・日本語学習や交流は、対面で行うことがすごく大事と思うが、今の時代では、交通費と時間をかけて行って帰ってくるのは、結構、ハードルが高くなっている。
・イベントに大人が参加して楽しんでいると、子どもも自然と参加するようになる。
・情報は発信するだけでなく、どのように人へつなげていくかが大事である。
・留学生がイベント等のボランティアとして参加する仕組みをつくればよい。そうすれば、留学生たちがＳＮＳで発信してくれる。
・日本語を教わっている子どもと親、そして教えているボランティアがネットワークでつながるとよいと思う。
・自分は地域で野菜を作っている。地域の日本人と外国人が一緒に野菜を作れば交流できる。
・イベントのチラシを日本語学校とか専門学校に配布するとよい。
・町会のごみ拾いに日本語学校の生徒が参加しており、上手にごみを拾ってまじめにやっている。
・町会のごみ拾いに日本語学校の生徒が参加しているが、一部の生徒は携帯を持ったまま歩いたり、食べ歩きをしたりマナーが良くなかった。

第５回会議　友好都市交流事業の紹介（異文化交流の取組）

第５回会議では、新宿区の海外友好都市交流をもとに、異文化交流について理解を深めた。会議では「市民同士の交流の土台をしっかり作ることで、自治体レベルでの友好都市提携につながる」などの意見があった。

【資料の概要】

●海外友好都市

◆ギリシャ・レフカダ市

明治時代の文人、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）は、レフカダ市に生まれ、新宿区でこの世を去りました。この絆をもとに相互に交流を重ね、平成元(1989)年 10 月 12 日に友好都市であることを宣言しました。



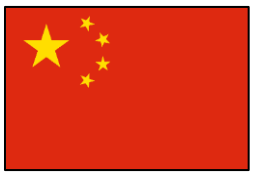
◆ドイツ・ミッテ区

新宿区とミッテ区（旧ティアガルテン区）は、区民合唱や青少年交流などを通じて交流を重ね、平成 6(1994)年 7 月 6 日に、友好協定を締結しました。



◆中国・北京市東城区

新宿区と中国・北京市東城区は、老人クラブゲートボールや少年サッカー、卓球などを通じて友好交流を深め、平成 7(1995)年 10 月 15 日に、友好交流・協力関係締結に関する合意書に調印がなされました。



ギリシャ・レフカダ市との市民交流事業（受入）（令和 6 年 10 月）

▼小泉八雲記念公園の見学



▼そば打ち体験



▼書道体験



ギリシャ・レフカダ市との市民交流事業（派遣）（令和 7 年 5・6 月）

▼小学校訪問での児童の合唱



▼民族衣装の体験



▼日本文化の紹介（けん玉）



【会議での主な意見】

・市民同士の交流の土台をしっかり作ることで、自治体レベルでの友好都市提携につながる。首長だけで友好都市提携を決めると長続きしないケースもあると思う。
・交流はまさに世界の平和につながっていく。民間レベルの交流がボーダーレスにつながる。
・青少年の交流は重要だと思う。
・交流はイベント参加の意識が強いと思うが、地域の清掃など日常の活動を一緒に取り組むのもよい。
・留学生は学位を取るだけでなく、日本の文化をもっと体験することが大切。
・外国文化が一番わかるのは、ホームステイやホームビジットだと思う。しかし、知らない人を家に入れることを不安に思う人もいると思う。
・留学生などの外国人が清掃活動やイベントに参加しても、その後の交流がない。積極的に何か考えないと交流が続いていかない。
・留学生との交流を続けようとしても、午前は授業、午後はアルバイトで忙しい学生が多くて難しい。
・日本語学校で社会科見学のようなことをやるとよいと思う。
・留学生はボランティア活動に参加すると満足して帰ってくる。
・ボランティアのネットワークを作って、自分で手軽に参加できるとよいと思う。
・ボランティアのネットワークでは、コーディネーターの役割も大事だと思う。
・自分は高校時代の日本人との交流が刺激になり、日本で生活することになった。友好都市交流は青少年の刺激になり、将来の夢にもつながると思う。
・ホームステイでは、日本文化を学ぶカリキュラムがあるとよいと思う。
・区が主催の「はたちのつどい」には、外国人が多く参加している。
・日本語学校では、いろんなイベントに学生が参加しているが、その後も何か一緒にできるとよいと思う。
・外国人が住んでいるが、高齢者の集まりになかなか参加してもらえない。気軽に参加できる方法を考えている。

第６回会議　地域の実情の把握（まち歩き等）

第６回会議では、地域の実情を把握するため、他の地域と比較してフランス人が多く住んでいる箪笥町地域のまち歩きを行った。また、地域の町会長４名を招いて、地域における多文化共生ついてお話を伺った。町会長からは「外国人が防災訓練や親睦会に参加している」などのお話を伺い、委員からは「地域ごとに特性があることを強く感じた」「地域の歴史、文化を大切にしたうえで日本人と外国人が交流や共生ができていることはよいことだと思う」などの意見があった。

【資料の概要】

箪笥町地域の特徴

・新宿区の東に位置し、北側を**神田川**、東側を**外濠**に囲まれている地域です。
・地形は、台地から神田川周辺の低地に向かう**坂の多い地域**です。
・**江戸時代**には**武家屋敷**や**町屋**、**寺社**が混在していました。
・**明治以降**は市街化が進み、高台の**閑静な住宅地**、神楽坂の**商業地**とともに、**工業地**として栄えました。
・新宿の地場産業である**印刷・製本関連事業者が多く立地**しています。
・**神楽坂周辺**は、**江戸時代**の形態を今も残しており、**風情があるまち**です。
・文化財、寺社や坂道などの**歴史的・文化的資源**も数多くある地域です。

箪笥町地域の人口（2025 年 1 月 1 日）

総人口　40,475 人
日本人　38,137 人
外国人　 2,338 人（5.8%）
＊上位３か国：中国 917 人　韓国 447 人　フランス 225 人
＊**フランス人が他の地域よりも多く生活しています。**
　アンスティチュ・フランセ東京（旧・東京日仏学院）があることからフランス人が多いと考えられます。



神楽坂について



・神楽坂は、**徳川家光**が江戸城外堀や牛込門と同時期に整備した道です。
・神楽坂周辺は、江戸時代の形態を今も残しており、**黒塀の続く石畳**の**風情あるまちなみ**を形成しています。
・神楽坂から裏道に入ると人目に触れにくく、**隠れ家的なまち**となっています。
・昔は料亭がたくさんあり、**芸者が行き交う花街**（かがい）として栄えました。
　現在は、昔ながらのお店がある一方、**おしゃれなレストランやバー**もあります。
・毎年７月に**「神楽坂まつり」**開催され、**阿波踊り**で賑わいます。

【会議での主な意見】

・今日の地域のまち歩きでは、1人の外国人として日本の文化を学ぶことができた。
・生まれてから新宿区に住んでいるが、同じまちでも雰囲気が違うので勉強になった。
・初めて神楽坂を歩いた。今度は個人的に訪れたいと思う。
・神楽坂はフランス人が住みやすい地域だと思う。
・外国人に今日歩いたところを紹介したい。
・新宿区に長く住んでいるが、箪笥町地域は今まで知らなかった。
・新宿区にはいろんなまち、いろんな文化がある。新宿区とはなかなか一言で表せないと改めて感じた。
・飯田橋あたりにフランス人が多いことを知ることができた。
・町会長たちの話を聞くと、箪笥町地域は大久保地域と比べて外国人は少ないと思うが、日本人と外国人との共生は共通テーマだと思う。
・町会長たちの話からは、地域ごとに特性があることを強く感じた。
・箪笥町地域は町会の数が多いため、1つの町会が小さい。小さいから人づきあいができるのだと思う。外国人の人数などの状況によって、外国人との付き合い方も変わってくると思う。
・神楽坂では町会と商店会でいろんなイベントをやっている。自分の地域でも参考にしたい。
・全国で商店街が無くなっていく中、新宿区の大久保や神楽坂は元気で活力がある。その中で外国人もいろんな形で貢献しているということは、魅力的であり、自慢できると思う。全国の地域も新宿区のように活力ある地域になってもらえるといいと感じた。
・町会長たちから、外国人が防災訓練や親睦会に参加していることを聞いた。地域の豊かな文化を生かしながら、今後も、共生にご尽力いただきたいと思った。
・地域の歴史、文化を大切にしたうえで日本人と外国人が交流や共生ができていることはよいことだと思う。



▲箪笥町特別出張所長から地域の特性について説明を受けている様子

第７回会議　実態調査の考察（データ分析等）

第７回会議では、桜美林大学の岩垂好彦 准教授を招いて、令和５年度に実施した多文化共生実態調査に関する考察を伺った。

岩垂好彦 准教授からは、外国人住民の人口や国籍、年齢、滞在年数などのデータをもとに、「どのように交流を進めるか」について、主に次のような考察をいただいた。

【考察の概要】

◆区の役割はプラットフォームとメディア（媒介、情報発信）

◆ビジネスパーソンと留学生の交流を中心に、地元住民との交流のきっかけ作りを各地で行うことが必要

- 地域センターの活用
- 教育機関（日本語学校、初中高等教育）における交流の促進
- 地元町会の巻き込み

◆特に 20～30 歳代の割合が高い

◆比較的短期間で人が入れ替わっている可能性がある

- 町会の巻き込み＋既に長年日本／新宿に居住している外国人住民と新しく来日した外国人との交流の場づくり
- 日本語の問題や日本のルール、マナーなどをざっくばらんに話し、相談し合えるような場づくり

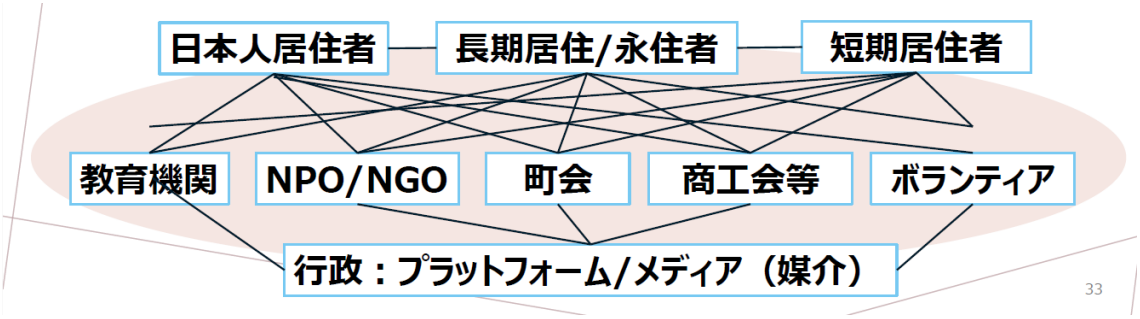


◆様々な主体による交流の推進

- 教育機関における国際交流ニーズの高さ
- NPO/NGO、ボランティアの活動の活性化
- 商工会等による交流活動の活性化
- 町会の活動への巻き込み

◆多様な主体がそれぞれの地域において、自分たちにできるところから活動を始めて広げていくことが望ましい

- 各主体間の情報共有とネットワーク化がされることで、交流活動は充実していくことが期待される
- ただし、意欲のある牽引者を様々な主体の中で見つけていくことが重要



【会議での主な意見】

・人と人とのつながりが希薄になっている。コミュニケーションを取るのが難しい時代になっている。
・イベントは１つの方法だが、イベントをやっても、その後が続かない。
・災害は誰にでも起こるので皆さん関心がある。人と人とのつながりに防災といった切り口を入れるとよい。
・新宿区はインターナショナルな区なので、人と人が混じり合えば多文化共生のよいいモデルケースになると感じた。
・ニュースで新宿区のはたちのつどいの対象者の約半数が外国人と聞いて驚いた。留学生が多いので納得した。
・地域センターまつりは毎年開催されているので認知度はあるが、単発のイベントは周知に工夫が必要である。
・大久保まつりの韓服を着たパレードでは、日本人の学生が参加している。日本と韓国の交流の機会となってよかった。
・外国人は仕事やアルバイトで忙しく、地域での交流に参加したくても参加できない人がいる。
・インターナショナル事業者交流会では、住宅展示場を会場にして交流イベントを開催している。
・インターナショナル事業者交流会では会議を日本語で行っている。日本語が分かる外国人が増えるとよい。
・外国から日本に来て生活していると、日本は優しく受け入れてくれる国だと感じる。
・日本に恩返しするために地域のボランティア活動をしている。
・多文化共生のためには、外国人が町会に参加するように力をいれるとよい。

第８回会議　交流のあり方の検討

第８回会議では、これまでの会議の振り返りを行い、審議テーマである「多文化共生の推進に向けた交流について」の提言に向けた意見交換を行った。

なお会議では、第２回会議から第７回会議の資料をまとめたものを資料とした。

【会議での主な意見】

・地域の外国人がイベントに参加している。特に子ども向けのイベントに参加している。
・外国人向けの防災訓練をやった。町会、商店街と外国人の距離が縮まった感じがした。
・大久保地域のクリーン活動にネパール人が大勢参加している。
・子どもに関連する行事には、親は出ていくと思う。
・子どもの健診や予防注射は、イベント周知のチャンスだと思う。
・行政だけではできないことがある。ＮＰＯに活動してもらうのがよいと思う。
・交流のターゲットは子育て層だけでなく、高齢者層、若者層もあると思う。
・多文化共生の理解が大事だと感じている。
・文化を伝えるイベントはとてもよい。
・文化体験で参加者は満足するが、日本人と外国人の交流にまで至っていない。例えば学生ボランティアが参加すると、交流につながると思う。
・交流イベントの情報を届けるためには、ＮＰＯ団体が母国語で伝えていくことが必要。
・外国人は受け身になってしまう。日本人から声をかけてくれると参加しやすい。
・１人１品の料理を持ち寄って交流会をやっている。日本人と外国人が参加している。
・留学生などが新宿の文化や歴史を勉強し、新しく来日した外国人に伝えていくとよい。
・学童保育や児童館では、子どもたちは日本人も外国人も楽しく過ごしている。
・外国人の高齢者に声をかけて交流を重ねていくことが課題になると思う。
・外国人コミュニティのイベントに日本人が参加するよう呼びかけるとよい。
・外国の文化の勉強会をやって、その後、外国の料理を食べに行くといったイベントはニーズがあると思う。
・町会や自治会では、外国人を受け入れて仲良くするにはどうしたらよいか話し合っている。



▲地域のお祭りに参加する外国人

第９・１０回会議　報告書の審議

第９・１０回会議では、報告書の案をもとに意見交換を行った。提言の部分に関する加筆修正などの意見があった。

【会議での主な意見】

・提言として「～すべき」という表現を加えるとよい。
・ボランティア活動に、高齢者の見守りなどの地域課題への参加も書くとよい。
・ボランティアを強調して書くなどの工夫があるとよい。
・提言の中に課題も書いてあるが、分かるようにするとよい。
・提言に新宿区の魅力や特性も記述するとよい。
・地域では外国と日本の文化が混ざり合って変わりつつある。日本人は外国人と積極的に関わり、意識を変えるという文章を入れるとよい。
・高齢者支援では、ボランティアが参加しており、日本人と外国人が交流して互いの文化や生活を知る機会となっている。
・自分は外国人であるが地域の祭りなどに参加している。最初は勇気が必要だったが、地域の方からの応援が心強くて原動力になる。地域への愛着がすごく湧いてくる。
・新大久保インターフェスでは、外国文化の体験だけでなく、防災について学ぶことができた。体験を通じて生きていく上での大事なことを学んだ。
・町会で花壇にお花を植える催しがあった。留学生が参加して、とてもよかった。
・留学生はボランティア活動に参加したくても、アルバイトで参加できない人がいる。
・情報提供について、日本語学校などのメーリングリストの活用を書くとよい。
・ＳＮＳ等の情報提供が効果的との記述に、多文化共生実態調査のデータを書くとよい。
・掲示板にお祭りやイベントのチラシやポスターを貼ると効果がある。
・地域センターではパン作りや味噌作りなども開催されており、交流につながる。
・地域交流館に外国人の高齢者も来ている。多くの方に利用していただけるとよい。
・日本人も外国人も住みよいまちになるよう、皆と一緒に仲良くしていきたい。
・交流イベントは、運営側だけでなく参加者にも意見を聞いて振り返ることで、改善点が見えてくる。
・報告書には、ボランティア活動とか地域参加についてきちんと書かれている。これはモデルケースになると思う。
・提言が新宿区長だけでなく、国に対しても発信できるとよい。

第４章　提言

第７期会議では、審議テーマを「多文化共生の推進に向けた交流について」として審議を行った。

会議では、議論を深めるため、「交流事例の紹介」や「区の取組の検証」、「地域の実情把握（まち歩き）」などを行った。

委員からは、「日本人と外国人が、様々な活動やイベントを一緒にやると仲よくなる。」「交流はイベントだけでなく、様々な機会があると思う。」「交流のターゲットは子育て層だけでなく、高齢者層、若者層もあると思う。」など多くの意見があった。

一方、日本人と外国人との交流に関して議論を進めていく中で、成功事例だけでなく、見えてきた課題もあった。

見えてきた課題

・文化体験で満足するだけでは、日本人と外国人が交流しているとまでは言えない。
・地域のお祭りやイベントで交流しても、その後の活動につながらない。
・イベントなど交流に関する情報がなかなか届かない。
・留学生の中には、交流イベントやボランティア活動に参加したくても、勉強とアルバイトで忙しくて参加できない人もいる。
・交流はイベントだけではない。
・日本人と外国人が交流し、地域で共生していくためには意識を変える必要がある。
・高齢者の集まりになかなか外国人が参加してくれない。
・生活ルール・マナーは外国人だけの問題ではなく、若者の問題と思う。

日本人と外国人との交流を促進させていくことで、国籍や言葉の壁を越えて互いに理解しあうことができる。そして、様々な課題を解決に導くことができると考える。

委員の意見を分類して整理を行ったうえで、具体的な提言について次のとおり示すこととする。

１　文化体験から交流へ

外国人が日本の文化を体験することや、日本人が外国の文化を体験することは、気軽に参加して楽しむことができ、多文化共生意識の醸成に効果がある。さらなる多文化共生意識の醸成のためには、日本人と外国人が共に参加し、一緒に話し合ったり、協力して作業したりすることで、文化体験から交流へと発展させるべきである。

地域では日本の伝統的なお祭りやイベントが開催されており、外国人が盆踊りや餅つきに参加している。また、書道や華道、着物の着付け、日本の昔遊びなどの日本文化を体験できるイベントにも、外国人が参加している。外国人が日本の文化を体験することは、日本の文化への理解を深めるだけでなく、日本の生活習慣やルール・マナーを知るきっかけにもなる。

一方、地域では、外国の音楽や踊り、食べ物を紹介するイベントが開催されており、参加した日本人は胸を躍らせて楽しんでいる。外国文化を体験するイベントに日本人が参加することは相互理解につながる。このため、日本人が外国の文化に触れる機会が増えるとよいと考える。

このように、日本や外国の文化体験は気軽に参加して楽しむことができるため、多文化共生意識の醸成に効果的である。

しかしながら、文化体験を「面白かった」「楽しかった」と満足して終わるだけでは、日本人と外国人が交流しているとまでは言えない。さらなる多文化共生意識の醸成のためには、日本人と外国人が共に参加することが大切である。日本人と外国人が一緒に話し合ったり、協力して作業したりすることで、単なる文化体験から交流へと発展させていくべきである。

２　様々な交流の機会への参加促進

日本人と外国人との交流の機会として、地域のお祭りやイベントがある。
そのほか、清掃活動や防災訓練、町会・自治会への参加も交流である。
また、誰でも気軽に利用できる図書館やスポーツ施設、活動団体が運営する交流スペースやカフェは交流の場となる。
様々な機会を通して交流の輪を広げていくとよい。

前述のとおり、日本人と外国人との交流の機会として、まずは地域のお祭りやイベントが挙げられる。そのほかの交流事例として、委員からは清掃活動や防災訓練の話があった。同様に、第６回会議でご参加いただいた町会長からは、外国人が防災訓練や親睦会に参加しているとの説明を受けた。

また、図書館やスポーツ施設、活動団体が運営する交流スペースは、交流の場となる。

様々なイベントや地域活動を通して交流の輪を広げていくとよいと考える。

【清掃活動】

清掃活動に留学生などの外国人が参加している。自分が生活している地域を自ら清掃することにより、環境美化の意識が高まるとともに、地域で気持ちよく過ごすことができる。

【防災訓練】

防災訓練に外国人が参加しており、外国人からは生きていくうえでの大事なことを学んだとの話があり、日本人からは外国人との距離が縮まったと感じたとの話があった。災害は誰にでも起こりうるものであり、関心が高いことから、人と人とのつながりに防災といった切り口を入れるとよいと考える。

【町会・自治会の活動】

町会・自治会に外国人も加入しており、中には自治会長を担っているという事例もある。また、外国人の受け入れを話し合っている町会もある。町会・自治会に加入することで、地域住民との顔の見える関係を築くことができ、地域に愛着を持つことができる。

【交流の場】

気軽に利用できる図書館やスポーツ施設、地域センター、生涯学習館、地域交流館などは、同じ目的や趣味を持った日本人と外国人との交流の場となる。また、活動団体が運営する交流スペースやカフェでは、日本人と外国人が気軽に立ち寄って会話をすることができる。

３　日本人と外国人との協働による交流の促進（ボランティア活動を含む）

地域では、日本人と外国人との協働によりイベントや地域活動を運営している事例がある。これは国籍や言葉の壁を越えて、多文化共生を推進させるものである。

イベントや地域活動に取り組む際には、運営側として外国人の参加を呼び掛けるとともに、日本人は外国人を受け入れる意識を育むことが大切である。また、交流を継続するための関係づくりや、活動終了後の振り返りが大事である。

イベントや地域活動に参加することは、地域に溶け込む絶好の機会となり、地域の担い手として期待することができる。

また、ボランティア活動に興味のある外国人は多い。協働の第一歩として、地域活動に外国人がボランティアとして参加するとよい。

このため、地域イベント等を積極的に情報発信し、日本人と外国人との協働による交流を促進すべきである。

大久保まつりや新大久保インターフェスでは、日本人も外国人も運営側となって頑張っている。また、前述のとおり外国人が町会・自治会に加入している事例がある。委員からは「最初は勇気が必要だが、地域の方の応援が心強くて原動力となり、地域への愛着がすごく湧いてくる」との意見があった。

日本人と外国人との協働によりイベントや地域活動の運営を行うことは、国籍や言葉の壁を越えて多文化共生を推進させるものである。そして、地域に溶け込み、地域への愛着が大きくなっていく。

このため、様々なイベントや地域活動に、運営側として外国人も参加するとよいと考える。

外国人の中には、地域活動に関心があっても、最初の一歩を踏み出すことに不安を感じる人もいる。そのため、日本人から地域の外国人に声をかけ、「一緒にやろう」と働きかけることが、参加のきっかけとなる。地域の文化が互いの関わりを通して新たな形へと変化していく中で、日本人においても、外国人を地域の一員として受け入れ、積極的に関わっていく意識を育むことが大切である。

同時に、日本人と外国人の双方が、互いの文化や考え方を理解し、尊重しながら、地域の活動にともに参加していくことが求められる。

そして、ひとつの活動が終了しても、その後の活動や付き合いにつながる関係づくりが大事である。そのためにも、イベントや地域活動の終了後には運営側に加えて参加者からも意見を聞いて振り返りを行い、良い点、改善点を次回に活かしていくことが必要である。

また、地域では、前述のとおりお祭りやイベント、清掃活動、防災訓練など、様々な活動に取り組んでいる。外国人がこれらのイベントや地域活動に参加することは、地域に溶け込む絶好の機会となる。時代とともに人と人とのつながりが希薄になっていく中で、日本人だけでなく外国人も地域の担い手として期待することができる。

【ボランティア活動への参加促進】

委員からは「私は日本に恩返しするためにボランティア活動をしている」「留学生はボランティア活動に興味を持っている」「ボランティア活動に参加した留学生たちは満足して目が輝いている」との意見があり、ボランティア活動に興味のある外国人は多い。

具体的なボランティア活動としては、イベントのスタッフや、清掃活動、花壇の花植えが挙げられる。また、子どもや高齢者の施設でのお手伝いや防犯パトロールも挙げられる。さらに、災害時においては、避難所運営ボランティアや通訳翻訳ボランティアとしての活躍が期待できる。

協働の第一歩として、地域活動に外国人がボランティアとして参加することで、外国人は地域に愛着が生まれるとともに、日本での生活に充実感が生まれる。

また、ボランティア活動を通じたつながりは、まさに日本人と外国人との交流であ

ると言えることから、今後、様々な地域活動へと発展していくことが期待できる。
なお、留学生が清掃活動などのボランティア活動に参加する際には、地域に貢献するといった意識を持って取り組んでほしい。このため、留学生を送り出す学校が、留学生に対して「地域を良くするため、共生するためにボランティアに参加している」といった意識を持たせることに留意することが必要である。

以上のことから、イベントや地域活動を積極的に情報提供し、日本人と外国人との協働による交流を促進すべきである。

４　多様な世代（親子、高齢者、若者）の参加促進

子ども向けのイベントは、日本人も外国人も親子や友達と一緒に楽しむことができる。
また、外国人の高齢者と若者へのアプローチも大事であり、高齢者に対しては、地域住民や活動団体が交流会やイベントへの参加を声掛けするとよい。若者層としては、新宿区は留学生が多いことから、学校を通じて留学生にイベントや地域活動の情報を提供して参加を呼び掛けるとよい。
イベントや地域活動への、多様な世代の参加を促進すべきである。

地域のイベントには外国人も参加しており、中でも、子ども向けのイベントでは、親子で参加して楽しんでいる姿が見られる。
また、子どもは親や友達が参加するイベントには、自然と自分も参加してみようと思うようになる。
このように、子どもが参加できるイベントは、日本人も外国人も親子や友達と一緒に楽しめることから、交流の機会としてはとてもよいものであると言える。
そして、日常生活の場である学校や学童保育、保育園などにおいては、日本人と外国人の子どもたちは楽しく交流している。
子どもの頃から異なる国の文化に触れることは刺激になり、子どもたちの夢につながっていくものである。まさに、子どもの頃からの交流は、未来の多文化共生への架け橋になると言える。
一方で、子育て世代だけでなく、高齢者、若者へのアプローチも大事である。
委員からは、高齢者の集まりになかなか外国人が参加してくれないとの意見があった。外国人の高齢者の場合、言葉の問題などから地域で孤立しているケースもあるため、地域で交流することは、地域で孤独にならないためにも、健康増進のためにも重要である。
このため、地域の交流会やイベントに気軽に参加できるよう、地域住民や活動団体が外国人の高齢者に対して声掛けして参加を促すとよい。
また、若者へのアプローチとして、新宿区は留学生が多いことから、留学生を巻き込んだ交流が効果的と考える。

留学生がイベントや地域活動に参加して交流が広がることによって、地域の担い手としての若者の活躍に期待できる。

イベントや地域活動への、多様な世代（親子、高齢者、若者）の参加を促進すべきである。

５　交流を促進するための効果的な情報発信

イベントや地域活動への参加を促進するためには、チラシなどの紙媒体に加えて、ＳＮＳなどの電子媒体による情報提供が効果的である。さらに情報を広げるためには地域のネットワーク（学校、町会・自治会、活動団体など）を活用するとよい。様々な手法により効果的な情報発信に取り組むべきである。

イベントや地域活動への参加を促進させるためには、日本人と外国人の両者に対する効果的な情報提供が必要である。

委員からは「イベントの情報がなかなか届かない」「チラシを配布するだけでは参加してもらえない」との意見があった。

イベントの中でも、地域センターまつりなど毎年開催される大きなイベントは認知度があるが、単発のイベントは認知度が低いため、周知に工夫が必要である。

令和５年度に実施した多文化共生実態調査では、区に取り組んでほしい情報提供の方法として、広報紙やパンフレット等の紙媒体よりも、ＳＮＳやホームページなどの電子媒体を望む割合が高かった。

このため、イベントなどの情報提供は、従来のチラシ配布やポスター掲示などの紙媒体に加えて、ＳＮＳやホームページなどの電子媒体が有効であると考える。

さらに、情報を広げるためには、日本語学校や専門学校、町会・自治会、商店会などのネットワークの活用が効果的である。例えば、学校を通じて留学生にイベントや地域活動の参加を呼び掛けたり、団体のメーリングリストを活用したりして情報発信することもよいと考える。また、外国人コミュニティが母国語で地域のお祭りなどを伝えると情報が広がる。

加えて、行政手続きや健康診断などの機会を捉えて、イベントの周知を行うのも参加を促すよいきっかけになると考える。情報は発信するだけでなく、どのように人へつなげていくかが大事である。

このため、様々な手法により効果的な情報発信に取り組むべきである。

６　多文化共生のモデルケースとして発信

新宿区は多様性に富んだ魅力的なまちであり、地域ごとに特徴がある。地域によって外国人の人数は違うが、日本人と外国人との共生は地域の共通テーマである。

新宿区はまちに活力があり日本人も外国人も貢献している。新宿区は多文化共生のよいモデルケースになっている。

新宿区の地域特性や魅力を積極的に発信していくべきである。

新宿区は多様性に富んだ魅力的なまちであり、歌舞伎町をはじめとした活気ある繁華街、西新宿の高層ビル街、閑静な住宅街、国際色豊かなまち、潤いある河川や緑豊かな公園、神楽坂など風情ある街並み、文化歴史が継承されているまちなど、地域ごとに特徴がある。

また、地域によって外国人の人数は違うが、そのうえで共生に取り組んでおり、日本人と外国人との共生は地域の共通テーマである。そして、新宿区はまちに活力があり、日本人も外国人も貢献していることから、新宿区は多文化共生のよいモデルケースになっている。

多様性に富んだ魅力的なまちである新宿区で、日本人と外国人が暮らしており、委員からは「日本人も外国人も住みよいまちになるよう、皆と一緒に仲良くしていきたい」との意見があった。

区民は自分たちが暮らす新宿区に誇りを持ち、多文化共生に取り組む新宿区は、区の強みである地域特性や魅力を積極的に発信していくべきである。

おわりに

第７期会議では、審議テーマを「多文化共生の推進に向けた交流について」として審議を行った。

委員からは、具体的な交流事例の紹介や体験談、日本人と外国人の交流への参加促進について多くの意見があった。

気軽に参加できる地域のお祭りやイベントは、日本人も外国人も楽しめるものであり、中でも、日本や外国の文化を体験できるイベントは、相互理解につながるものである。また、交流の機会はイベントだけではなく、清掃活動や防災訓練など様々である。そして、日本人と外国人との協働により、多様な世代が様々な交流に参加していくとよい。

イベントや地域活動に取り組んでいる町会・自治会や商店会、活動団体の皆様に敬意を表するとともに、多くの日本人と外国人の参加を後押しする役割を行政には期待したい。

新宿区は多様性に富んだ魅力的なまちである。交流を機会に日本人と外国人が協力して地域活動に取り組むことで、地域特性を活かしたさらなる多文化共生が推進されると考える。

資料

第７期 新宿区多文化共生まちづくり会議委員一覧

	団　　体	氏　　名	国　籍
	東京未来大学 モチベーション行動科学部教授	郭（カク）　潔蓉（イヨ）	日本 ※台湾出身
会長	早稲田大学教育学部教授	小林（コバヤシ）　敦子（アツコ）	日本
	宇都宮大学国際学部助教	申（シン）　惠媛（ヘウォン）	韓国
	明治学院大学　教養教育センター准教授	長谷部（ハセベ）　美佳（ミカ）	日本
副会長	関西国際大学客員教授	毛受（メンジュ）　敏浩（トシヒロ）	日本
	区民	岩野（イワノ）　雄一（ユウイチ）	日本
	区民	ゼヤー　トゥエ	ミャンマー
	区民	松田（マツダ）　奈己（ナミ）	日本
	区民	楊（ヤン）　恩榮（ウンヨン）	韓国
	在日本東京韓国人連合会	李（イ）　香順（ヒャンスン）	韓国
	在日フランス人協会	江副（エゾエ）　カネル　ジョエル	フランス
	在日本大韓民国民団新宿支部	金（キム）　杓炯（ドゥヒョン）	韓国
	㈱MAKOTO	グエン　チユン　タイン	ベトナム
	㈱Oyraa	コチュ　オヤ	トルコ
	認定 NPO 法人シャプラニール	坂口（サカグチ）　和隆（カズタカ）（R7.5.31 まで）	日本
		藤岡（フジオカ）　恵美子（エミコ）（R7.6.1 から）	日本
	国際交流ネットワーク・ヘルスケアグループ	叔（シュク）　焱（エン）	中国
	在日タイ人ネットワーク	鈴木（スズキ）　ノンヤオ	タイ
	インターナショナル事業者交流会	武田（タケダ）　一義（カズヨシ）	日本
	NPO 日本国籍華人同携会	立川（タチカワ）　雅章（マサアキ）	日本
	新宿区多文化共生連絡会	陳（チェン）　麗婷（リティン）	台湾
	㈱ ASP Japan	ドゥラ　リトゥ　クマル	ネパール
	さくら日本語サークル	原田（ハラダ）　健一（ケンイチ）	日本
	ＩＣＢ協同組合 専務理事	朴（パク）　相範（サンボム）	韓国
	㈱ＧＭＴインターナショナル	マッラ ティラク バハドゥル	ネパール
副会長	難民連携委員会 事務局長	マリップ　センブ	ミャンマー
	新宿区商店会連合会	伊藤（イトウ）　節子（セツコ）	日本
	日本語学校	井上（イノウエ）　貴由（タカヨシ）	日本
	専門学校	塚本（ツカモト）　隆之（タカユキ）	日本
	新宿区町会連合会	南（ミナミ）　嘉子（ヨシコ）	日本
	新宿区民生委員・児童委員協議会	宗像（ムナカタ）　進（ススム）	日本
	新宿区町会連合会	守重（モリシゲ）　有子（ユウコ）	日本
	新宿区町会連合会	山口（ヤマグチ）　みちよ	日本